

津波の心得 10 か条

地震が起こったときは、その後に発生する津波に対する注意が必要です。次のことに気を付け、落ち着いて避難しましょう。

1. 小さな揺れでも油断禁物

小さな揺れでも大津波の危険性があります。

2. 高い場所へ避難する

海岸から「より遠くへ」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。

3. 津波のスピードは、速い

「注意報」や「警報」が出る前に津波がくることもあります。揺れを感じたら、直ちに避難しましょう。

4. 津波は、繰り返し来る

津波は2回、3回と襲ってきます。波が落ち着くまでは注意しましょう。

5. 引き潮がなくとも注意

震源付近の地形によっては、引き潮が起こらない津波もあります。

6. 満潮の時は、要注意

水位が高く、被害が大きくなります。

7. 正しい情報を聴く

防災行政無線放送やテレビ・ラジオなどで正しい情報を聴きましょう。

8. 河川に近付かない

津波は河川を遡ってきますので、河川には絶対に近付かないようにしましょう。

9. 海岸に近付かない

注意報、警報が解除されるまで海辺には絶対に近付かないようにしましょう。

10. 海上では

船舶は、無線等の情報を元に速やかに行動しましょう。

巨大地震発生
昭和21年12月21日午前4時19分過ぎ、串本町潮岬南方沖を震源とする地震が発生しました。マグニチュード8.0、有感範囲は、東北北部及び北海道を除く日本のほぼ全域にわたる大地震でした。さらに、その数分後、地震により発生した津波が、本市をはじめとする県南部の海岸を襲いました。大波は3回以上もあり、中には5mを超えるものも

ありました。
この地震による被害は、地震そのものよりも、津波や火災による被害の方が、はるかに大きいものでした。当時の田辺市及び新庄村を合わせて死者69人、家屋流失145戸、家屋全半壊502戸、床上浸水731戸の被害がありました。特に新庄地域はV字型になった湾の奥にあるため、津波のエネルギーが集中しやすく、大きな被害につながりました。また、当

津波の瞬間
津波が旧新庄村に到達したのは、地震発生から約20分後。辺りはまだ暗く、波は音をたてて、まちに襲い掛かりました。多くの人は危険を察知し、すぐに逃げ

出しましたが、中には、余りにも強い揺れに動揺し動けなくなった人や、津波の認識がなく、後片付けに氣をとられていた人、津波を甘く見てその場にとどまった人、更には、津波がおさまったと思い、毛布や家財道具を取りに家に戻った人などもいました。津波は川を遡って橋や道路を破壊し、逃げ場を失った人々を容赦なく飲み込んでいったそうです。

あの日の記憶

新庄町
熊代敏男さん

当時私は16歳。地震が起こったのは外がまだ暗い早朝で、寝ていた私は突然のことに驚き、飛び起きました。長い時間続く横揺れと、家が揺さぶられて起こる嫌な音が私を不安にさせました。しばらくすると揺れが収まったので、家が倒れる前に父と一緒に仕事道具を家から中庭へ運び出していると、「津波が来るぞー」という声が遠くから聞こえてきました。慌てて飛び出すと、裏を流れる川を黒く濁った波が逆流し、水があふれ、道路は20cmほど浸水していました。それを見て、もう無我夢中で近くの山に逃げました。その後、揺れも津波も落ち着いたものの、製材所から流れてきた丸太やがれきなどが辺りにあふれ、まちの様相は一変していました。
あれから70年がたちました。私は、もしもの時には助け合うことも大切ですが、自分の命を自分で守ることも大事だと思えます。まずは何よりも「生きる」ということ。大地震、そして津波の経験者として、皆さんに伝えたいと思います。



昭和南海地震から70年

～地震から学び、教訓を伝えるために～

戦後間もない昭和21年12月21日明け方、巨大地震が発生しました。揺れとそれに伴う津波は、家屋や道路等に甚大な被害を与え、多くの尊い人命を奪いました。

それから70年がたち、まちの復興とともにその記憶は風化しつつあります。しかし、過去の地震から学び、伝えることは、近い将来必ず起こると言われている大地震への備えにつながります。この節目にもう一度、過去の記憶と経験から防災意識を高めましょう。固防まちづくり課 地域防災係 ☎0739-26-9976

■参考文献

- ◇田辺市新庄公民館・昭和の津波復刻委員会（1999）『復刻 昭和の津波 付昭和の津波余録 チリー津波』
- ◇和歌山県（1996）『南海道地震から50年』

①新庄駅の裏山から見た文里港方面。がれきが線路にもあふれています。②20年前に東光寺内に建立された供養像。台座には遭難者の氏名と被害状況の悲惨さが記されています。③津波の潮位標。④⑤津波後の様子。材木だけでなく、船が造船所から押し流され、まちを襲いました。